

橋門塗替 鳴門塔 大主

防護工で順調に進捗

ヒロセ製プレガーダー採用

大鳴門橋（橋長1629m、中央支間876m、3径間2ヒンジ補剛トラス吊橋）の主塔塗り替え工事の路面防護工にヒロセ製のプレガーダー橋が採用され、工事が順調に進捗している。

海上部では特に揺れが激しく、品質確保が困難なため本四連絡高速道路は主塔に磁石で保持する磁石車輪ゴンドラを使用、省力化、コスト削減のため主塔塗替装置を採用した。

路面防護工は使用期間が短く、製作が短く、製作費が低減できる。ヒロセ製のプレガーダー橋が採用される。

剛桁の塗り替えを完了させ、同年度末から3P主塔塗り替え工事に着手、現在、4P主塔の塗り替え工事中だ。

主塔塗り替え工事でのゴンドラ作業は同橋など業範囲が限定されず交通規制も無く、作業基地としても有効に使え、路面防護工を設置することにした。

多様なスパンに対応可

また、主塔塗り替え工事は路面上の工事となるため交通規制（車線規制）が必要となり、ゴンドラ作業の直下には、第三者が入れないために規制は長引く。このため作

業範囲が限定されず交通規制も無く、作業基地としても有効に使え、路面防護工を設置することにした。

路面防護工は使用期間が短く、製作費が低減できる。ヒロセ製のプレガーダー橋が採用される。

昨年4月に3P主塔の路面防護工（橋長30m、幅員10m）を設置、同年10月に同主塔の塗り替え

を完了、同月には4P主塔に路面防護工を移設し、6月に完了予定だ。元請けはブリッジエンジニアリング。



路面防護工にプレガーダー橋を採用（大鳴門橋）